

# 商業教育支部だより

2012. 8. 25

第69号

愛媛県高等学校教材センター商業教育支部

松山市旭町 松山商業高等学校内

編集 商業教育支部  
事務局  
印刷 川邊印刷(株)  
(941-4586)

## 視聴覚教材について思うこと

愛媛県立西条高等学校 教諭 小笠原 昇 平

毎回この紙面を読む度に、先生方の取組や姿勢から多くのことを勉強させてもらっていますが、いざ自分が語る番になると、あまりに反省すべきことのほうが多いことに気付きました。そこで、今回は私自身の取組を語るのではなく、今春卒業した生徒が実践したプレゼンテーション（以下、プレゼン）の事例を紹介することで、視聴覚教材についての想いを伝えられたらと思います。

社会起業家になりたいという彼女は、ある国立大学のAO入試の受験で課されたプレゼンに行き詰まっていた。そういう時期に、私が彼女のクラス担任から彼女へのアドバイスを依頼されました。そのプレゼンは、①これまでの取組で自己評価できること、②志望理由と入学後の目標について、アナログな方法により15分以内で行うという条件でした。ボランティアに対する意識が高く、高校での授業をきっかけに将来アジアやアフリカの貧しい子どもたちを教育の面で支援したいと考えるようになった思いや、アメリカで学んだ「ボランティアとは、誰かのためにしてあげるのではなく、自分自身も幸せになれるもの」という経験などの「点」を一つのストーリーを持った「線」へとつなぐこと、そして今、何らかの形で実践してみることが私は提案しました。以前から行動を起こしたかったという東日本大震災の復興支援として、「かわいい手作りクッキー1枚を100円で700枚販売し、原価を引いた5万円を募金する。」というアイデアをクラスメイトにプレゼンし、全員が賛同し参加してくれて大成功させました。そして、それらの「点」をスケッチブックの用紙1枚1枚にまとめ、しっかりした「線」となったお手製プレゼン資料を持って受験に行きました。残念ながら第一志望校には合格できませんでしたが、見事、第二志望の公立大学に合格しました。

わずかな期間での関わりでしたが、私から見ても彼女はこのプレゼンの実践を通して、本当に大きく成長したと感じました。その大きな要因は「振り返りと検証」にあったのではないかと思います。その時は分からなかった自分のやっていることの価値を、「線」としてストーリーにしていく過程で、初めて自己評価ができたのではないのでしょうか。また、その過程で、それまで彼女自身が考えてもいなかった事の派生、つまり、自己評価による「価値と価値との関連性」に気付けたことも大きかったはずです。第一志望校を不合格になり、辛くてたまらなかったことさえも「評価」・「検証」することで、その時の自分としっかり向き合い、夢の実現へ大きく踏み出せたのだと思います。

プレゼンは、相手に情報をどう伝え、理解・納得を得るかを考えて行う必要があるため、独りよがりではなく、客観的でなくてはならないものです。そして、それをまとめる過程には、自尊感情を育て未来に向かう力を成長させる「すごい可能性」があります。視覚と聴覚に訴えかけ、学習効果を高めるのが視聴覚教材の意義ですが、それをより効果的に行うのは、例えばプレゼンソフトの機能発表会的な技能ではなく、相手に伝えたい「想い」を込めて行うことではないのでしょうか。その「想い」を育てることも、視聴覚教材の持つ大切な教育的意義の一つだと、私は彼女から教えてもらいました。

# 情報機器を用いた総合実践の取り組みについて

愛媛県立今治北高等学校 教諭 安藤 一之

商業科における「総合実践」は商業教育の集大成である。本校では、時代の趨勢と社会の要請に応えるための知識と技術を生徒に身に付けさせるために、より現実感の伴う体験的・実践的な学習方法を導入する必要があるのではないかとこの観点から、手作業による実践によって、一通りの知識・技能を身に付けさせた後に、インターネットを介した他市場（今治市場と大阪市場）との取引を経験させている。手作業による実践とインターネットによる電子商取引によって、生徒の興味・関心を喚起すると共に、大きな教育効果を上げることができるのではないかと考える。

## <特徴・工夫した点>

- (1) 広くは、経済・経営、人・組織の基礎・基本が学べるよう、さらに経営戦略、マーケティング、生産・研究開発、財務管理、IT等の活動を網羅し、これらの活動を通して起業家精神の育成とコミュニケーション能力の向上を図るプログラムを構築した。
- (2) 毎年度、各市場担当者と意見交換を重ねその反省に基づき、学習内容のバージョンアップを図っており、現在も発展途上にある。特に、インターネットが抱える今日的な諸問題を視野に入れながら、情報モラルや情報セキュリティ、経済活動と法で学ぶ商標権・著作権・意匠権等の法知識についてもその都度、確認をする体制を整えている。
- (3) 今治・大阪両市場において、各自が会社を設立するための手続き（たとえば、定款の作成など）を行い、その後、Web上に「自社を紹介・PRするホームページや商品の紹介ページ」を開設させることにしている。また、各自がタオル（今治市場での取扱商品）や綿糸（大阪市場での取扱商品）という地元産品を実際に販売するために必要となる商品マスターの作成、取引先とのビジネスコミュニケーションを図る上で必要となる名刺の作成等を行い、これらのことを通して、モチベーションの維持・向上を図っている。

## <実践内容>

- (1) ビジネスの要はコミュニケーション

本実践は、BtoBの取引を基本としているので、売買契約の締結にあたっては「見積依頼書・見積書・注文書・注文請書」のやり取りがあるが、同時にビジネス・コミュニケーションの重要性を学ばせるために、eメールによる情報交換や情報共有を多く取り入れている。

- (2) ネット銀行による代金決済

代金振込はネット銀行を経由して行われ、当座預金の出納管理をはじめ、現実のネット上で起こっている金銭トラブルやセキュリティに対する知識を強化することに役立っている。

- (3) 時代の流れに敏感に

一巡目の売買取引は練習を兼ねているため、BtoBの組み合わせを教師側で設定し、売買取引に伴う一連の作業を完結させる。二巡目は、マーケティング戦略（商品の企画力や仕入諸掛・販売諸掛を加味したうえで算出された適切な価格設定等）で勝負するようにし、不特定多数の顧客をいかにして自社へ吸引するかということを考えさせている。

- (4) 資金運用

資金運用についても、金融教育の一環として、株式学習ゲームによる金融ブログの開設を行わせている。

## <今後の課題>

先日、ある企業の方から、以下のようなお話を伺った。その方曰く、「情報通信機器の発達によって、便

利さを共有することができるようになったということは紛れもない事実であるが、その反面、たとえば、携帯電話の使用についても、新入社員を見ていると、メールで済ませていいものと、実際に足を運んで、相手との対話の中で物事を進めていかなければならないこととの区別がつきにくくなっているという現実がある。」と。

教育活動における情報通信機器の活用は、今後ますます重要な位置を占めることになると思うが、相手の気持ちを汲み取ることができる力の育成等、本当の意味でのコミュニケーション能力の向上を目指してこれからも模索し続けていきたいと思う。

## 視聴覚教材について思うこと

愛媛県立宇和高等学校 教諭 和田 俊之

昨年の秋ごろ、私は、過去に使用していた教材を整理しようと、家の物置にある段ボール3箱を取り出した。20年以上前からの教材だが、何を入れていたのかは定かでない。1つ目の段ボール箱を開けてみた。その中には、HR担任をしていた頃の品々が入っていた。クラス掲示用の時間割表（その当時は土曜日まで授業があった）、座席表（45人学級）、相田みつをの日めくりカレンダー、卒業文集などが入っていた。その頃の生徒の顔が浮かび、とても懐かしく想った。2つ目の段ボール箱を開けてみた。その中には、問題集や教材研究に使っていた大学ノート、少々色あせた手書きの単元テストや学習プリントが入っていた。「まじめにやっていたんだな。」と感じ、初心に戻ることができた。そして3つ目の段ボール箱を開けてみた。その中には、OHPシートやビデオテープが入っていた。OHPシートは新採の時によく使っていたが、最初の頃のOHPシートは、罫線も文字も手書きで、罫線からはみ出た文字や誤字や脱字もあった。8桁精算表などは数字も小さく、何を書いているか分からないほど、とても見づらいものであった。時間をかけ、手には色とりどりのマジックの跡を付けながら準備していたことを思い出した。次に出てきたOHPシートは、コピー機を使ったもので罫線や表題は活字となっており、見やすいものになっていた。これらのOHPシートは厚紙で枠を付け、バインダーにファイルしてあった。その当時の視聴覚機器といえば、OHPが主流だったために、私にとってはこれらのOHPシートは宝物であり、大切に扱っていたことを記憶している。

現在、学校で利用している視聴覚機器といえば、パソコンを使ってのプレゼンテーションソフトやOHC（Over Head Camera）が頭に浮かんでくる。前任校である川之石高校で10数年前に、初めてOHCを使用した時は、「なんて便利なものができたのだろうか。」とびっくりしたものである。問題集を開いてOHCに載せればディスプレイに映し出すことができる。さらには写真、立体物などの映像を映すこともできる。資料を事前に準備しておかなくても、その場で映すことができるため、時間、労力をかけずに授業を行うことができた。

このように、時代とともに視聴覚機器は便利なものへと変化し続けている。劇的な変化を目の当たりにしてきた私の経験上、視聴覚機器を利用する際に一番大切なことは、生徒の興味を引き出し、学習の効率を上げるとともに生徒の理解度を高めることにあると考えている。問題集を開いてOHCに載せるだけといった工夫のない教材では、いくら見た目はきれいでも、生徒にとってわかりやすい教材とはいえない。私自身、様々な講演を聞く機会をいただいているが、わかりやすいと感じた講演というのは、いずれも視聴覚機器の使いこなしてではなく、要点を押さえ、聞き手にわかりやすく伝えることに重点がおかれているものばかりであった。今後も「わかりやすく」を念頭に、より効果的な視聴覚機器の利用方法について研究を進めていきたい。

平成23年度 教材センター商業教育支部 学校別教材貸出統計表

使用機関	加 盟 校										合 計
	三 島	新居浜商業	西 条	今治北	北 条	松山商業	上浮穴	野 村	八幡浜	宇和島東	
クラス数	23	12	24	24	20	27	6	9	21	24	
				分3		定4			定4	定4	
4 月											0
5 月	8	7		8		12		8			43
6 月	21	14	2	16	3	12		14	6	5	93
7 月	26	14	10	16		14		14	12	10	116
8 月	21	10		6		10		14		5	66
9 月		10		6		4					20
10 月		8		6		4					18
11 月		3		6		14					23
12 月											0
1 月		4		3		8					15
2 月						10					10
3 月							18				18
合 計	76	70	12	67	3	88	18	50	18	20	422

平成24年度 教材センター商業教育支部 役員一覧表

支 部 長	愛媛県立松山商業高等学校校長	平 岡 徹
顧 問	愛媛県教育委員会指導主事(商業)	田 中 圭

	学 校 名	理 事	運 営 委 員
東 予	三 島 高 校	大 谷 勲	渡 辺 洋 子 (三 島 高 校)
	新居浜商業高校	大 浦 哲 雄	大 竹 博 久 (新居浜商業高校)
	今治北高校	宮 植 信 一	松 中 浩 (今治北高校)
中 予	東 温 高 校	森 岡 昭 彦	竹 村 久 晴 (東 温 高 校)
	大 洲 高 校	森 藤 博 明	◎塩 梅 智 子 (松山商業高校)
			○谷 村 和 美 (松山商業高校)
南 予	八 幡 浜 高 校	清 家 信 孝	大 澤 修 一 (八 幡 浜 高 校)
	宇和島東高校	川 上 千 代	大 石 哲 也 (宇和島東高校)

(注) ◎ 支部主任 ○ 支部担当

事務局よりお願い

◎ 教材センターの利用について

- (1) 教材使用計画表を参考にしてください。  
なお、教材使用計画表は、商業科主任宛にeメールで送付しています。
- (2) 2～3学期分の教材使用計画表は、商業科主任宛にeメールで送付しています。
- (3) 申し込み方法は、電話・FAX等を御利用ください。随時、受け付けています。  
なお、教材借用申込書は、貸出決定校にのみお送りします。
- (4) 教材の発送費は、利用校負担となっています。  
なお、指定業者がある場合は、御連絡ください。